

平成 30 年 2 月 17 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1529022008

氏 名 嶋 雅代

論文審査員

主 査（職名） 毎田 佳子（教授）

副 査（職名） 田淵 紀子（教授）

副 査（職名） 稲垣 美智子（教授）

論文題名 Influence of ‘Emotions of preconception, prenatal and breastfeeding for neonatal’ on
breastfeeding intention in mothers who conceived via assisted reproductive technology

（生殖補助医療後に妊娠・出産した母親の妊娠成立過程からわが子への母乳育児に至るまで
の感情が母乳育児の意思に及ぼす影響）

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究の目的は、ART 後に妊娠・出産した産後 1 ヶ月の母親 12 名を対象として、妊娠成立過程から母乳育児に至るまでの体験や感情に焦点を当て、『妊娠成立過程から母乳育児に至るまでの感情』および関連する要因について明らかにし、その結果をふまえ、『妊娠成立過程から母乳育児に至るまでの感情』が『母乳育児の意思』に及ぼす影響を明らかにすることである。研究方法は、質的データ収集と分析の後に、テキストマイニングによる分析を行い、それらの分析結果を解釈の段階で統合する、順次的研究方略とした。

『妊娠成立過程から母乳育児に至るまでの感情』では、「妊娠から出産を乗り越える過程で生まれる感情」として 13 の感情、「わが子と対面して実感する女性・母親としての感情」として 13 の感情が抽出された。また、『妊娠成立過程から母乳育児に至るまでの感情』に関連する 9 要因が抽出された。『母乳育児の意思』に影響を及ぼしていたのは、ART による妊娠成立過程や妊娠経過よりむしろ、母乳育児の母子相互作用の体験によって母親になったという実感や、児への愛情が深まり「母乳育児を続けたい」という思いであった。一方、今回の ART で余剰胚を凍結保存している場合は、「母乳育児は、次の治療を始めるまでの期限付きで続けたい」という『意思』も示され、『母乳育児の意思』に大きな影響を与えていた。

【審査結果の要旨】

日本で増加する ART による妊娠・出産に焦点を当て、ART 後の母親における母乳育児の意思の特性を明らかにした意義のある研究である。研究手法には、質的分析に加えてテキストマイニングを用いており、研究の質向上への意欲が認められる。公開審査では、研究のデザインや分析方法に関する質問に対し適切に回答がなされ、今後の研究の方向性について述べられた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。